

TSUDA TODAY

No. 126

津田塾大学

March 2023



2022年度 卒業式式辞

▶学長 高橋 裕子

ご卒業おめでとうございます。新しい世界に羽ばたかれる皆さんに心からの祝福を申し上げます。今年度は多文化・国際協力学科から初めての卒業生を送り出す、記念すべき卒業式でもあります。

皆さんの大学時代は、新型コロナウイルスによるパンデミック、ウクライナでの戦争、トルコ・シリアでの地震など、世界史に刻まれる悲劇が多い4年間でした。とりわけ2年次と3年次の大学生活は、コロナ下による困難が多かったことでしょう。そうした中でも皆さんは絶望したり、状況をただ嘆いたりするのではなく、新しい学び方や活動の仕方などを模索し、工夫し続けながら大学生活を全うしました。そのことをうれしく、誇りに思います。

一方で、海外との出入国が制限され、計画していたフィールドワークや、夢であった長期留学を取りやめざるを得なかった方々も多かったと思います。しかし、思うように運ばなかった大学生活は、意味がなく、無駄なものであったでしょうか。

津田梅子が女子英学塾を創設する前、聴講生として学んだオックスフォード大学セントヒルダズカレッジのモットーは“*I lived not in vain.*”です。“*in vain*”は、「無駄に」「かいがない」などネガティブな意味ですが、これを *not* で否定すると、この文脈では自分の生涯は何か、誰かに役に立った、貢献した、意味があった、ということになります。いわば「社会に貢献できるような人生を全うした」という意味で、本学のモットー、「変革を担う、女性であること」に通じるものがあります。

最近、津田梅子が卒業式で行ったスピーチをいくつか読んでみましたが、多くに共通することは、学生たちが本学で学んだことを生かして行うであろう、これからの社会貢献に寄せる期待です。同時に、梅子が使った言葉で心を打つのは“*noble*”という形容詞を使って、皆の生き方に品性、あるいは気品を求めたことです。社会的な評価と関係なく、どのような職業に就いても、本学の学びを備えた学生たちには *noble* な人生を、と願っていました。

例えば、1906年3月の卒業式式辞では、「本学で学んだ理想と教養を携えて、本学の教育が目指す目的をお一人おひとりがいざなわれる人生においてそれが何であれ、達成するようにと期待しています。……もし粘り強く頑張り、謙虚さを持って、自分が知っていることや正しいと感じることを実行していけば、どのような仕事に携わっていても、それが高いものであろうが、低いものであろうが、あなたの人生は気品のあるものになりますし、あなたが受けた教育は意味のあるものになるのです(“*your life will be noble, and your education not in vain.*”)」と梅子は述べています。この一文は、セントヒルダズのモットーとも呼応しています。自分や自分の周りの狭い範囲の利益だけに興味を持つのではなく、より広い視野を持って、より多くの人びとに貢献するように、という趣旨だと思います。

パンデミック下で大学生活を送った皆さんにも、どうかこの「逆境を、創造を灯す光に」変えて、次の段階において、本学で受けた教育を基



盤にして存分に活用していただきたい。皆さんはこの4年間で、幅広い教養と専門性を身につけたはずですが、それをどう生かすのか、誰のために、何のために使うのか、がこれから先の人生で問われます。また、その学びは、状況が思うように進まない時や、「正解」のない問いに向き合った時にこそ、力を発揮するものになるでしょう。

学びは卒業で完結するものではなく、生涯続きます。これからの人生のどこかの段階で大学院で学んだり、留学をしたりすることも視野に含めていただきたいと思います。本学での4年間の学びはそのような次の学びを行う土台を作ったのです。特に、閉塞している日本の現状を突破するには、梅子のように海を渡って異なる世界を経験していただくことが大切でしょう。“*your education not in vain.*”というフレーズを胸に、これからも学び続け、広く他者と連なりながら、「変革を担う」女性として、気品ある人生を送っていただければ、と願っております。



2022年度 卒業・修了(終了)者数

2023年3月16日付

< 学部 >

学芸学部	人数	備考
英語英文学科	235	2022年9月30日卒業3人
国際関係学科	221	2022年9月30日卒業4人
多文化・国際協力学科	65	
数学科	50	
情報科学科	50	2023年3月31日卒業1人
計	621	
総合政策学部	人数	備考
総合政策学科	110	2022年9月30日卒業3人
計	110	
学部合計	731	

< 大学院 >

修士課程	人数	備考
文学研究科	12	うち英語教育研究コース8人
国際関係学研究科	3	
理学研究科	6	数学専攻2人、情報科学専攻4人
計	21	
後期博士課程	人数	備考
文学研究科	4	終了4人、修了は該当者なし
国際関係学研究科	1	2022年9月30日終了1人、修了は該当者なし
理学研究科	0	
計	5	

2022年度 各賞受賞者

星野あい賞

第2代学長・星野あい先生の寄付を基金として制定された賞。成績優秀な数学科の学生に授与。

数学科：工藤 美里 阿部 瑞穂 結城 里香

石坂泰三賞

元本学理事長・石坂泰三氏の寄付を基金として制定された賞。

英語英文学科：大学院に進学し、かつ成績優秀な学生に授与。

星野 莉伽 藤原 朋香 林 渚紗

情報科学科：成績優秀な学生に授与。

大岸 菜由 園 櫻子

国際関係学科：優秀な卒業論文を書いた学生に授与。

田村 かな 藤原 日菜子

赤松良子賞

本学卒業生で、労働省初代婦人局長として男女雇用機会均等法の制定に尽力された赤松良子氏のご功績をたたえ、優秀な卒業研究プロジェクトを完成させた総合政策学科の学生に授与。

総合政策学科：佐藤 陽菜子

中根千枝賞

本学卒業生で、女性フィールドワーカーのバイオンアであった中根千枝氏の功績をたたえ、特に優秀なフィールドワーク報告卒業論文を作成した多文化・国際協力学科の学生に授与。

多文化・国際協力学科：佐々木 恩愛 高橋 優歌 原 花乃

学科主催の論文賞

情報科学科 卒業論文最優秀賞

特に優秀な卒業研究を行った情報科学科の学生に授与。
丸山 礼華

総合政策学科 卒業研究プロジェクト奨励賞

優秀な卒業研究を行った総合政策学科の学生に授与。
佐藤 千明 吉池 奈央



学位授与報告

博士の学位が次のとおり授与されました。

なお、授与式は2023年3月16日に挙行されました。

山下 靖子

現職：津田塾大学 国際関係研究所 特任研究員 他

学位授与日：2023年2月15日

学位の番号：博士乙第28号

学位の種類：博士(国際関係学)

論文題目：「戦後沖縄問題を巡るハワイの「沖縄系移民」に関する国際社会学的研究

日本とアメリカの狭間で「オキナワン」であるということ」



中根千枝賞創設記念シンポジウム

多文化・国際協力量科では、優れた卒業論文を完成させた学生をたたえる「中根千枝賞」を創設しました。今年度、学科設立4年目を迎え、初の中根千枝賞受賞者を輩出するにあたり、本学出身で、日本における女性フィールドワーカーのパイオニアであった中根千枝氏をめぐってシンポジウムを2022年11月15日(火)に開催しました。

なかね ちえ 社会人類学者。1926年東京生まれ。津田塾専門学校(現津田塾大学)を卒業後、東京大学文学部東洋史学科、同大学院を卒業。1953年からインドに留学し、北東部の山岳地帯でフィールドワークを実施。

女性で初めて東京大学教授に就任し、学術系としては女性初となる文化勲章を受章するなど、女性研究者のパイオニアとして活躍した。2021年、94歳で死去。



関西大学特任教授清水展氏の講演



(中央)清水氏、(清水氏の左)小島副学長、(他8名)多文化・国際協力量科の教員

UNICEF 東京事務所代表ロベルト・ベネス氏特別講義

2022年11月10日(木)、11月28日(月)の2日間、UNICEF 東京事務所代表のロベルト・ベネス氏をお迎えし、オンラインと対面にて、全編英語の講義を開催しました。

11月10日は「世界の開発と貧困問題」(総合政策学科教授 新海尚子)の講義の一環として、オンラインで行われ、新型コロナ禍で様々な危機に直面している世界の子どもの現状、ユニセフと日本政府との共同プロジェクト、またプロジェクト現地でのチャレンジ等についてお話をしました。当日は50名が参加し、国際的なキャリアに関する質問も寄せられ、多くの意見交換を行なうことができました。

11月28日は「国際保健論」(多文化・国際協力量科教授 三砂ちづる)、「多文化・国際協力の実践」(多文化・国際協力量科教授 松山章子)の講義の一環として、小平キャンパス特別教室にて対面で行われました。ロベルト・ベネス氏の熱のこもった対面での講義に、学生たちも熱心にメモを取りながら受講している姿がみられました。講義の最後には質疑応答の場が設けられ、ロベルト・ベネス氏に英語で質問をするなど、より理解を深める機会となりました。



アイルランドの詩人ポーラ・ミーハン氏による詩の朗読会



2022年11月28日(月)に学芸学部英語英文学学科の授業「イギリス文学特殊講義(詩)」の一環として、アイルランドの詩人ポーラ・ミーハン(Paula Meehan)氏による詩の朗読会が行われました。ミーハン氏は2013年から2016年までアイルランド詩学教授も務められた、国内外で高く評価されている詩人です。この朗読会では、詩集 *As If by Magic* より数編の詩を朗読、解説し、事前に作品を読んだ学生より寄せられた質問やコメントに答えてくださいました。その後、本学で教鞭もとられている作家のクララ・クマガイ先生を聞き手に、詩が生みだされる過程などについて話されました。授業の履修者を中心とした学生・院生に加えて、学外から関心のある方も参加して、ミーハン氏の音楽的で力強い朗読に聞き入りました。学生からのコメントに関連しておっしゃっていた「どのような詩も読み手についての詩になりうる」という言葉も、聴衆の心に印象深く残ったのではないのでしょうか。

『インディゴを探して』原画展と対談

本学 120 周年記念事業の一環である『インディゴをさがして』(クララ・クマガイ作、早川敦子訳、横須賀香挿絵、2020 年小学館より刊行)の原画展が津田梅子記念交流館で開かれ、絵本の原画 20 点が並びました。11 月 30 日(水)には館内の岡島記念チャペルにて、作家、画家そして編集者の特別対談があり、小学館編集者で本学卒業生でもある喜入今日子氏が進行役を務め、英語英文学科助教の円浄先生と清水先生が通訳を担当しました。この絵本をめぐる作家、画家、編集者それぞれの思いや、作成プロセスの興味深いお話を聞くことができ、和やかにアートの思考を共有する時間となりました。



『インディゴを探して』原画展



左から喜入氏、横須賀氏、クララ・クマガイ先生、清水先生、円浄先生

鯖江市 × 津田塾大学シンポジウム

2022 年 12 月 3 日(土) 千駄ヶ谷キャンパスにて鯖江市 × 津田塾大学シンポジウムが行われました。本学は、2017 年に福井県鯖江市と鯖江商工会議所との 3 者相互連携協定を締結し、メガネや漆工芸といった鯖江市の伝統工芸技術を用いた商品の共同開発をはじめとする鯖江市内産業の振興に取り組んできました。

連携推進センターとしてコロナ禍以降初めて学外の方にも対面でご参加いただくイベントでしたが、当日は約 100 名の参加者を迎え、千駄ヶ谷キャンパスが大いに賑わいました。

プログラム前半では、高橋裕子学長と佐々木勝久鯖江市長による講演が行われ、続いて「若者として鯖江のまちづくりに携わって」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネリストとして、鯖江市 JK 課(地元の女子高校生がまちづくりに参画するプロジェクト)OG で現鯖江市職員の女性 2 名と鯖江市との連携活動に参加して商品開発に携わった本学学生 3 名が登壇し、若者として地域創生に携わった経験やその活動から得たものについてお話いただきました。シンポジウムの最後には、来場者を対象とした鯖江特産品が当たる大抽選会が行われ、盛況のうちに終了しました。



【連携推進センター】鯖江市 × 津田塾大学シンポジウム

『紙幣の顔になる偉人たち』開催



2022 年 12 月 5 日(月)から 7 日(水)まで東京シティアイ(KITTE 丸の内地下 1 階)で開催された「渋沢栄一の郷 深谷博覧会第 2 弾 ~ 渋沢栄一・津田梅子・北里柴三郎 ~ 新紙幣 PR キャンペーン『紙幣の顔になる偉人たち』」へ出展いたしました。

2024 年度上期発行予定の新日本銀行券の肖像に決定している渋沢栄一・津田梅子・北里柴三郎 3 者ゆかりの団体が一堂に会し、各人物を紹介するパネル展示やオリジナルグッズの販売を中心に開催されました。本学では、創立 120 周年を迎えた津田塾大学や新五千円券の顔になる津田梅子の紹介、津田梅子資料室が主催する 2022 年度企画展示の案内、津田塾大学生協による大学関連グッズの販売を行い、ご来場された方々へ本学を紹介するよい機会となりました。

卒業生やそのご家族にもご来場していただき、津田塾大学を懐かしむ声を数多く聞くのと同時に、在学生と津田塾大学生協がコラボした商品など大学関連グッズも好評でした。

3人の女子留学生の研究者による鼎談



左から久野明子氏、生田澄江氏、高橋学長

2022年12月18日(日)に、大山(山川)捨松、瓜生(永井)繁子、津田梅子3人の女子留学生の研究者(大山:久野明子氏、瓜生:生田澄江氏、津田:本学学長高橋裕子)による鼎談を行いました。

2022年は、日本人初の女子留学生として、山川捨松(当時11歳)永井繁子(当時8歳)津田梅子(当時6歳)ら5名が、岩倉使節団一行とアメリカの地を訪問した1872年からちょうど150年です。

3人の絆は生涯にわたり紡がれ、豊かな関係が保たれていたことを、3名の研究者のお話からうかがい知ることができます。

この鼎談は、120周年記念事業の一環として、小平キャンパス5号館1階の守谷多々志画伯作「アメリカ留学(津田梅子)」の屏風絵の前で行われました。

収録した動画は、津田塾大学公式 YouTube チャンネルにて公開しています。

<https://www.youtube.com/tsudajyuku/>



香川と都市圏の大学連携推進事業シンポジウム

2023年1月17日(火) 香川大学にて「香川と都市圏の大学連携推進事業～かがわ Bridge プロジェクト(KBP)～シンポジウム」が開催されました。オンラインでの同時配信も行われ、大学や自治体、企業の関係者ら約200名が参加しました。

本シンポジウムは、大学間の交流を活性化して地方創生を担う人材育成につなげることを目的に香川大学と東京の私立大学の間で実施している国内留学制度の報告会として開催され、本学と香川大学のほか、芝浦工業大学と東京農業大学を含めた4大学の学長および香川県知事と昨夏に香川県内で行われた短期プログラムに参加した学生が登壇しました。

シンポジウムは2部で構成され、第1部の基調講演では、高橋裕子学長が「ダイバーシティ社会の実現に向けた高等教育機関のミッション」と題し、長期的な視点での女性リーダー育成の重要性について講演されました。第2部の学生報告には、本学から小豆島と善通寺市で実施した短期プログラムに参加した学生3名が登壇し、実体験を踏まえた現状分析や課題への理解といったフィールドワークの重要性、他大学生との交流による専門科目を超えた学びや知見の相補、新たな視点の獲得など、学内の講義だけでは得ることが難しい貴重な経験ができたことを報告しました。



【連携推進センター】香川と都市圏の大学連携推進事業シンポジウム

2022年度 クリスマス礼拝 奨励要約

賛美の力 新共同訳聖書 ヨハネによる福音書 第3章16節

▶一般社団法人ユーオーディア ヴァイオリン奏者 工藤 美穂氏

音楽学校でヴァイオリンを学んでいましたが、演奏評価が点数でなされ、競い合っていて戦っているようで、次第に楽器を手にすることが辛くなり、音楽の意味も、人生の目標も見失ってしまいました。そんな時に、初めて教会に行き、チェロの演奏で賛美歌の Amazing Grace を聴きました。聴いたその瞬間、感動で心が震えて涙が止まりませんでした。牧師先生のメッセージは、天地万物を創造された唯一の神が、御子イエス・キリストをこの地上に送られ、私たちのすべての罪を背負われて十字架で死なれ、その神の愛を信じる者が永遠の命を得ることができる、とのお話でした。さらに、音楽とは、神の愛に生かされている感謝と喜びの歌であり、それが賛美です、音楽は賛美なのです、とおっしゃいました。私の心に大きく響きました。一曲の賛美歌 Amazing Grace を通して、神様に会い、人生の目的も見出すことができましたのです。私は、現在ユーオーディアの一員として、ヴァイオリンによる賛美と宣教の使命を与えられ、活動しています。また、ライフワークとして、高齢者施設のボランティア演奏を行っていますが、そこでも、音楽の力、賛美の力を実感しています。

*お話の前後に、伴奏者の柳瀬佐和子さんと共に、クリスマスの賛美歌や、Amazing Grace など、素晴らしいヴァイオリンを演奏してくださいました。



本学学生の受賞(国際学会 IEEE GCCE 2022)

国際学会 IEEE GCCE 2022 において、本学理学研究科修士課程 2 年の岡あゆみさんの英語登壇発表が以下の賞を受賞しました。

Excellent Student Paper Awards, Silver Prize

Ayumi Oka (Tsuda University, Japan): "Otonona: A Prototype for Experiencing Absolute Pitch Using Multimodal Augmented Reality"

IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers: 米国電気電子学会)は電気・情報工学分野における世界最大規模の学会です。

岡さんは、10 月に大阪で開催された国際学会 IEEE GCCE 2022 に参加し、全 231 報の発表の中で、学生発表のうち 2 位という受賞を果たしました。

第 6 回 津田ヶ谷祭開催報告

▶ 第 6 回津田ヶ谷祭実行委員会

第 6 回津田ヶ谷祭を盛会のうちに終了することができました。

今年度は 3 年ぶりの対面開催となり、地域密着型の学園祭を作るべく、委員一丸となって準備を進めました。多くのサークル団体や地域連携先のみなさまにご参加いただき、魅力あふれる企画を実施することができました。特に、梅公園で行った縁日企画には、近隣の方にもご来場いただきました。デジタルパンフレットを導入したり、中庭をミニステージとして利用したりするなど、実行委員一人ひとりの意見を取り入れた新たな試みも多く、挑戦の 1 年でした。

当日は交通事情の影響によるタイムテーブルの変更等、不測の事態もありましたが、迅速に対応することができ、大きな混乱を避けることができました。コロナ禍の中、直接やり取りをすることが困難な状況でしたが、個々が工夫を凝らし、どのように実施するか積極的に意見交換を行った経験は、これから社会に出ていく私たちにとって大きな財産となりました。

まだまだ歴史の浅い学園祭ではありますが、津田ヶ谷祭が総合政策学部らしさを伝え、地域社会に活力を与えられるような存在となれるよう、引き続き活動を続けて参ります。

津田ヶ谷祭に参加いただいたみなさまに感謝申し上げます。



正門



縁日の準備を行う実行委員

2022 年度 梅子スカラシップ(サークル活動等)受賞者発表

梅子スカラシップ(サークル活動等)は特定の分野に秀でた学部生及び大学院生や学内外における諸活動で著しい実績を上げた者・団体などに対し、その実績を顕彰することを目的とした本学独自の奨学金です。今回受賞された総合政策学科 3 年丸山あかねさんは 2022 年 10 月、「Advertising Week Asia(アドバタイジングウィークアジア)学生コンペティション」に参加、遺書の作成(セルフアーカイブ)・葬儀予約をデジタル化するサービス「LASTING」を提案し、書類審査・最終プレゼンを経て見事優勝を果たしました。丸山さんの課外活動への積極的な取り組み、自分自身の学びを深めていることを高く評価され今回の受賞となりました。3 月 9 日(木)に千駄ヶ谷キャンパスにて授与式が開催され、高橋学長より受給者へ証書と副賞が授与されました。



丸山あかねさんと高橋学長、全学学生委員、セミナー担当教員とともに

ご挨拶

2023年3月31日付で定年退職を迎える教員よりご挨拶申し上げます。



文学研究科 教授
野田 小枝子

英文学科を1975年に卒業しました。中学校で勤務、留学を経て、1983年より非常勤講師としてお世話になりました。その後、再び留学期間を経て、1997年からまた非常勤講師として勤務、2010年からは、千駄ヶ谷に開設された文学研究科英語教育研究コース(2023年度より英語教育実践研究)のディレクター兼教員として13年間お世話になりました。非常勤講師時代を含めると津田には30年以上お世話になったこととなります。数多くの学生の推薦状を書きました。数多くの学生とラウンジなどで話し込みました。専任になってからは研究室、オンラインの面接室を駆使して話を聞きました。そのような時間の中で、時には社会の仕組みに憤慨したりしながらも、話を聞くことでドキドキワクワクし、学生と触れ合うことで幸せを感じていたのは私の方だったと思います。自分の頭で考えることのできる、すばらしい津田の学生たち、あなたたちはどこへ行ってもたくましく生きていけます。私にはあなたたち1人1人が大きな誇りです。ずっとずっと大好きです。



学芸学部英語英文学科 教授
Jonathan D. Picken

It has been a privilege to have spent over thirty years of my career teaching the wonderful students at Tsuda University and working with a wide array of enthusiastic and dedicated university staff members and fellow teachers and researchers. As someone who is specialized in foreign language teaching, I have found it a particular pleasure to work with generations of motivated and gifted language learners and to see them develop into English speakers who can play their part in the world with confidence and poise. I hope that present and future teachers, staff members, and students at Tsuda will cherish their time at this special place as much as I have done.



総合政策学部総合政策学科 教授
伊藤 るり

総合政策学科創設2年目の2018年4月に着任、5年の勤務を終えて定年退職となります。わたしは修士課程、そしてフランス留学後の非常勤時代を本学の国際関係学研究科・同研究所でお世話になりました。このため、これまでに培った国際社会学とジェンダー研究におけるいくばくかの知識と経験を短い期間とはいえ、本学のために役立てることができたことを嬉しく思っています。また、トランスジェンダー学生迎え入れの環境整備の時期に在任が重なり、学生委員、あるいは関連科目担当教員として、教職員・学生とともに自分のジェンダー理解を根っこからアップデートできたことも収穫です。ゼミで交わされた熱気ある討論も大事な思い出です。マイノリティの視点を学科の特色のひとつである計量的研究に反映させることは容易ではありませんが、学生の中にはこれに果敢に取り組む者も出てきているように思います。変革を願い、これを担う彼女たちに熱い声援を送ります。



ご挨拶

2023年3月31日付で定年退職を迎える職員よりご挨拶申し上げます。

事務局 付 専門 員	古屋 敦子	学生生活課
	城井 文子	情報サービス課メディア・サービス室(視聴覚センター)
	大竹 加余子	教務課
	澤田 あゆみ	経理課
	利根川 恵子	情報サービス課メディア・サービス室(図書館)
	高野 ひとみ	情報サービス課システム・サービス室(計算センター)

2023年3月をもちまして、6人が「卒業」いたします。無事に職務を全うすることができたのは、教職員関係者のみなさまからのご指導の賜物でございます。心から感謝申し上げます。

私ども6人は入職までのキャリアや就職した時期も別々で携った仕事もバラバラですが、折にふれお互いの近況を報告しあいながら絆を深めてきました。

同じ年齢だからこそ、仕事のことはもちろんのこと、子どものことや親の介護のことなどプライベートなことも気軽に話せて分かり合うことができました。

思い起こせば、何も分からない新入職員のころは先輩たちの手を煩わせたことも多々ありました。失敗を繰り返しながら自分の力で作り

上げていくことができたときは大きな喜びになり次への意欲が湧きました。他大学の方や企業の方とのコミュニケーションから人脈が広がり、自分の世界を広げていくことができました。後から入職された方と一緒に仕事をするのは自分と違う価値観に触れて大変刺激になりました。

6人がともに過ごした自然豊かな小平キャンパスにはたくさんの思い出が詰まっています。

桜の下で紙コップで乾杯したこと、初夏に教室にまで響いたカッコーの鳴き声、夏の暑さに負けず頑張った野球やテニス、秋の紅葉の美しさ、入試のために朝早く雪かきをしたことなど、四季のなかで記憶されている出来事は語りつきません。IT化が進む世の中になっても、「津田の森」がいつまでも残っていることを願っています。

「大学」という学びの場で、学生だけでなく自分たちも多くのことを学ぶ機会が得られ、充実した社会人生活であったと思います。

長くもあり、あっという間であった気もいたします。

私たちはそれぞれの道を歩んでいきます。

でも、6人の心には常に津田塾大学があり続けていくでしょう。これからは強力なサポーターとして見守っていただけたらと思います。

末筆ながら、津田塾大学のますますのご発展を祈念しております。

私たちのアーカイブ

さくらんぼ保育所

私たちのメンバーのうち、3人がさくらんぼ保育所に子どもを預けていました。

現在の8号館の保育所の前は、図書館西側(現在新書庫がある場所)の職員住宅を改造しての共同保育所でした。ここで子どもを身近に感じながら仕事を続けることができ、定年まで勤務できたことを、支援してくださった大学と寄付等でご支援いただいたみなさまに感謝しています。



津田塾大学のさくらんぼ保育所は1980年に共同保育所として設置され、2022年3月まで延べ100人以上の子どもの保育に関わり、教職員、学生、公開授業利用者など、さまざまな人々が研究や教育、業務に従事するうえで欠かせない役割を果たしてきました。

職員親睦の会

入職した当時は年末に「職員忘年会」が開催されていました。部署に関係ないグループが結成され、歌や踊りなどが披露されました。

この他にもスポーツ大会や登山や生け花のサークルなどの活動もあり、親睦を深めてきました。

現在は「オンライン教職員新年会」として開催され、学長から新年のご挨拶や新任教職員から入職への抱負が話されます。



1980年代の職員忘年会



2023年3月定年退職者
前列：左から大竹加余子、澤田あゆみ、古屋敦子
後列：左から高野ひとみ、利根川恵子、城井文子

給付型奨学金『津田塾大学 パイオニア・スカラシップ』が創設されました

新たな給付型奨学金『津田塾大学 パイオニア・スカラシップ』が創設されました。この奨学金は、学業成績に加え、卓越した行動力、創造性、発信力等を持った本学学生に対し、留学・海外での実践活動を支援するため最大200万円を支給するという趣旨で、匿名の方からいただいた寄付を原資とするものです。国際社会で活躍する人材の育成を目的としており、1年間に給付される本学奨学金としては最高額の奨学金となります。

奨学金の詳細・募集要項は以下に掲載しています。

国際センター学内奨学金 Web サイト：
<https://cie.tsuda.ac.jp/support/scholarship/campus/>

2023年度授業実施方法について

▶全学教務委員会

2023年度の授業は、大学が指定する一部の科目(「メディアを高度に利用した授業」)を除いて、原則対面で実施いたします。ただし、2023年度においても、感染爆発が発生し緊急事態宣言が発出されるなど行動自粛が求められる場合には、オンライン授業となる可能性があります。

また、2023年度より、新たに本学の授業実施方法として、対面授業の他に「メディアを高度に利用した授業」を追加します。

「メディアを高度に利用した授業」とは、オンライン型、オンデマンド型、そしてそれらと対面授業等を組み合わせたブレンド型という方法で実施される授業です。「メディアを高度に利用した授業」で修得した単位は、60単位を上限として卒業に必要な単位として算入できます。

「メディアを高度に利用した授業」の一覧は2023年度の時間割公示の際に、教務課からのお知らせに掲載します。

2022年度第1・2ターム 授業に関するアンケート実施結果

2022年度第1・2タームの授業に関するアンケートを6・7月に実施しました。延べ20,024人の履修者数に対して回答者数は8,410人、回答率は42%でした。設問1～12、18～25は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、ほとんどの設問において4点以上と高評価を得る結果となりました。設問13～15、17は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問です。昨年度同時期から特に改善した項目は、20レポート等の返却(0.46ポイント上昇)です。今年度は対面授業が主体となり、学生の学修の取り組み状況に更なる改善が見られました。結果は引き続き学内で検討を行うとともに、今後もアンケートを実施し、さらなる授業改善に努めてまいります。

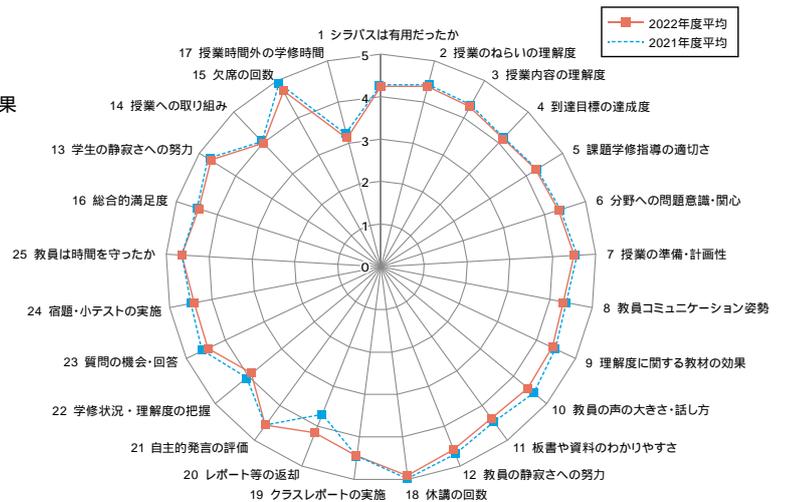
授業に関する設問

- この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
- 各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
- 各回の授業の内容は理解できましたか。
- 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
- 課外学修の指導(参考文献の提示、文献の調べ方など)は適切でしたか。
- この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
- 教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
- 教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
- 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。
- 板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
- 教員は静かな環境で受講できるよう努力をしていましたか。
- 総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
- 教員は何回くらい休講(補講のないもの)をしましたか。
- 教員はクラスレポート(口頭発表)を課し、論評していますか。
- 教員はレポート等の返却(またはその告知)をしていますか。
- 教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
- 教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
- 教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
- 教員は宿題や小テストを課しましたか。
- 教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

- 授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
- この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
- この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
- この授業に関して、授業時間外で学修に当てた時間は毎週どれくらいでしたか。

文献調査・資料収集を行った時間も含む



『創立 120 周年記念事業』中間報告書をお送りいたしました



2019年11月より開始いたしました『創立120周年記念事業募金』には、多くのみなさまからご芳志を賜り、2022年10月31日までに2,632件、総額455,525,591円の多大なご寄付をいただきました。心から御礼申し上げます。

12月末には、『創立120周年記念事業中間報告書』をお送りさせていただきました。以下のURL、またはQRからはe-book形式でもご覧いただけます。

募金の募集期間は、2024年3月31日までとなっております。卒業生をはじめ広く社会のみなさまに本事業に引き続きご賛同いただきますよう、改めてお願いいたします。

今後ともみなさまの変わらぬお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<https://support.tsuda.ac.jp/projects/120th.html>



寄付者ご芳名 (2022年12月31日現在 掲載希望者のみ)

サポート<津田スピリット>募金

【大山捨松賞の創設】
久野 明子 様

【バイオリン・スカラシップのために】
匿名

【津田塾大学教育振興資金】
熊谷 和子 様
久留 百合子 様
一般社団法人津田塾大学同窓会
他 3 名様

【学修環境整備(小平キャンパス)】
和田 圭司 様
他 2 名様

【学生支援(学外学修・海外活動)】
匿名

【学生支援(留学生派遣)】
匿名

サポート<津田スピリット>募金 創立 120 周年記念事業募金

三宅 宏子 様
有賀 夏紀 様
一瀬 美佳 様
源 恭子 様
清水 寛敏 様
松里 房子 様
山口 昌子 様

岩崎 敦子 様
鈴木 百合子 様
中村 清恵 様
白川 光代 様
出樋 直子 様
塩尻 伸子 様
高橋 裕子 様

龍田 有理 様
八丁地 園子 様
落合 明子 様
山口 恵子 様
山本 真之 様
根本 和彦 様
内野 祥二郎 様

夏目 道子 様
水野 仁美 様
田原口 京子 様
嶋 節子 様
平野 千代子 様
田中 真利子 様
佐藤 暉 様

築野グループ株式会社
築野食品工業株式会社
築野ライスファインケミカルズ株式会社
築野運輸株式会社
株式会社関電工 西関東営業本部 多摩支店
他 37 名様

サポート<津田スピリット>募金 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急募金

水谷 正大 様
若野 真弓 様

卒業 30 周年同期会
1972 年度卒業 50 周年記念行事事務委員会

他 3 名様

理事会・評議員会開催報告

第198回評議員会 2022年10月28日

【諮問事項】

1. 2022年度補正予算(案)に関する件
2. 役員・評議員報酬等規程の改正に関する件

【報告事項】

1. 女子大学におけるトランスジェンダー学生受け入れの検討状況について
2. 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)に基づく履行状況調査に係るフォロー・アップ・意見交換会の実施について
3. 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定について
4. 大学設置基準の改正について
5. 私立学校法の改正について
6. 津田梅子記念会&ホームカミングデーに

ついて

7. 創立120周年記念事業について
8. 留学の動向について
9. その他

第313回理事会 2022年10月28日

【審議事項】

1. 2022年度補正予算(案)に関する件
2. 役員・評議員報酬等規程の改正に関する件

【協議事項】

1. 本学における公的研究費の管理に関する件

【報告事項】

1. 女子大学におけるトランスジェンダー学生受け入れの検討状況について
2. 津田梅子記念会&ホームカミングデーについて

3. 創立120周年記念事業について
4. 寮の新築と今後の方針について
5. 梅林の土地活用について
6. 留学の動向について
7. その他

第314回理事会 2022年12月16日

【審議事項】

1. 人事院勧告に伴う本学教職員の給与改定に関する件

2. 非常勤講師就業規則の改定に関する件

【報告事項】

1. 2022年度事業計画に係る中間報告について
2. 梅林の土地活用について
3. その他

Diversity of Our Lives 120通りの私たちの生き方

1900年の開学以来、創業者・津田梅子のバトンを受け継いだ多くの卒業生たちが、「津田スピリット」を胸に、社会へと踏み出してきました。「Diversity of Our Lives」では、創立120周年を記念し、21世紀を生きる若い女性達のロールモデルとなる卒業生をWebサイトで紹介しています。

本学は、120年の歴史の中で女性初の外交官や弁護士をはじめ、様々な分野において活躍する女性を輩出してきました。その中には、一つの道を究める人もいれば、多くの経験を経てその道にたどりついた人もいます。多様な選択肢を可能にする背景には、本学のリベラルアーツ教育を基盤とした豊かな教養と高い専門性を育ててきたことが根底にあるともいえます。

津田塾大学での学びが、将来どのような可能性に結びつくのか。卒業生自身が「自分」、「周囲」、「将来」と向き合って歩んできた道

りを示しながら、受験生や在學生に向けてメッセージを送ります。

Webサイトでは、18の文字をカテゴリーとし、それぞれの生き方や考え方にアプローチできるようになっています。

卒業生の多様な人生と実体験を参考に、すべての女性たちが輝きながら自らの道を切り拓いていくことを期待します。



<https://120lives.tsuda.ac.jp/>

洋菓子 Umeyori が発売されました

Umeyori は津田塾大学創立120周年を記念して、2022年に学生有志と小平市のフランス菓子店「ル・セル」の協働で誕生しました。

柚木麻子氏の小説『らんたん』に登場する、津田梅子が学生たちにピーナツタフィーを作ってふるまっていたというエピソードからのインスピレーションで、異国と日本を繋ぐ夢への想いを託しました。

フランス菓子店「ル・セル」にて一つ216円(税込)で販売中です。詰め合わせや地方発送等は、お電話もしくはWebフォームでお問い合わせください。



【問い合わせ】

ル・セル
TEL: 042-347-4500
水曜日定休。



公開講座を再開します

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止していた各種公開講座を、再開する準備をしています。

詳細は、決定次第下記Webサイトにて告知します。

津田梅子記念交流館プログラム

<https://koryukan.tsuda.ac.jp/>

公開講座「総合2023」

<https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/synthesis/index.html>

女性学

<https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/feminism-lecture/index.html>

お知らせ

LINE公式アカウントを開設しました

イベントや入試情報などの情報を発信しています。LINE他公式SNSへのご登録をお願いします。

LINE



Facebook



Instagram



2023年度学生スタッフ募集

津田塾大学の魅力を学外に伝える学生スタッフを募集します。在學生であれば、学科・学年は問いません。人と接することが好きな方、オープンキャンパスなどで津田塾大学を受験生におススメしたいという方など、多数のご応募をお待ちしています！応募方法の詳細は、経営企画課より在學生の皆さんにTsudaNetでご案内します。

plum garden 編集部員募集

学生と教職員で構成される津田塾大学オフィシャルWebマガジン「plum garden」の編集部員を募集します。記事を書くことに興味がある方、写真を撮ることが好きな方、津田塾大学での「ひと」「キャンパス」「学び」をテーマに記事を一緒に発信しませんか。

お問合せ：経営企画課 kouhou@tsuda.ac.jp



Tsuda Today No.126

発行日 2023年3月31日

発行 津田塾大学

編集 経営企画課 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1

Tel. 042-342-5113 <https://www.tsuda.ac.jp/>

表紙切り絵 CHIKU

(種村千明・2000年卒)